

喜多方市議会決算特別委員会会議録

令和４年１０月１７日（月曜日）

【総務常任委員会所管分】

午前９時５６分 開議

○佐原正秀委員長 若干時間が早いようですが、始めたいと思います。

皆さん、おはようございます。

五十嵐会計管理者兼会計課長より欠席の願い出がありましたので、これを許しました。

出席委員は定足数に達しております。

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の日程ですが、初めに令和３年度喜多方市歳入歳出決算、令和３年度喜多方市下水道事業会計剰余金の処分及び決算、及び令和３年度喜多方市水道事業会計剰余金の処分及び決算に対する総括質疑を行います。その後、意見の取りまとめ等を行いますのでよろしくお願いいたします。

なお、総括質疑は、これまでの委員会での議論の中で、特に市長にたすべきものについて行うものでありますので、内容を整理され、簡潔明瞭に質疑をされますようお願いいたします。

質疑は一問一答にて行います。

それでは、これより質疑に入りますが、各常任委員会の所管事項ごとに進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

では、まず、総務常任委員会所管事項について行います。

ご質疑ございませんか。

菊地とも子委員。

○菊地とも子委員 では、私のほうから質疑させていただきます。

財政力指数、ここに書いてあります0.37で、経常収支比率が92.3%、将来負担比率53.1%、このことに関しても質疑をしたのですが、その答弁がちょっと甘いなと思ひまして、再度総括で質疑することといたしました。

令和３年度から一本算定になっているということで、昨年ですけれども、より以上に悪化するというお話がありました。それにもかかわらず、この分析が甘いと、すごく的確ではなかったと感じました。今後また一本算定になったことで、やはりもう少し緊張感を持って事業の見直しをするべきではないのかなと深く感じたところでございます。健全な財政運営に今後努めるべきと思ひますが、このことについて、市長からしっかりと答弁をいただきます。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） お答えをさせていただきます。

本市の財政運営につきましては、委員ご指摘のとおり、令和３年度の決算におきまして、財政力指数が0.37で、県内で13市の中で12番目、経常収支比率につきましては92.3%で12番目、さらに将来負担比率は53.1%で7番目となっております。

健全な財政運営におきましては、市税収入をはじめとする自主財源の確保が重要であると考えておりますけれども、新型コロナウイルス感染症による税収の減少に加え、令和３年度から、ご指摘のありました普通交付税の一本算定に伴う交付額の削減が大きく影響しておりまして、今後の財政運営上、大きな課題であると認識をしております。

そのため、令和３年度の決算状況の検証を踏まえながら、引き続き、最少の経費で最大の効果を上げるべく、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドや国県補助金、さらには優良起債の活用など、有利な財源を最大限に活用するとともに、経常経費の削減、さらには本市産業の振興を図るための有効な施策の推進などによりまして、財政構造の弾力化の確保に努めてまいりたいと思います。

しかしながら、市町村だけで改善していくことは限界があることから、様々な形で今までも実施してまいりましたが、引き続き、国に対し、地方財政基盤の強化に関する様々な要望を、機会を捉えて実施してまいりたいと思います。

コロナ禍の中で、行政ニーズ、サービスも複雑多岐にわたっております。そういった意味では、対応すべき点が非常に大きいと思いますけれども、特に新型コロナに関しましては、国の特別措置法に基づいて実施するわけでありますので、これらが基礎自治体に負担がかかるということは、私はおかしいのではないかという立場の中で、全国の市長会、さらには県市長会を通じて全国市長会、さらには会津総合開発協議会を通して、健全財政運営に努めるようにということで要望をこれからも強くしてまいりたいと思います。

○佐原正秀委員長 菊地とも子委員。

○菊地とも子委員 いろいろな角度からやはり努めていただいて、財政構造の弾力化にしっかり努めていただきたいと思います。

以上です。